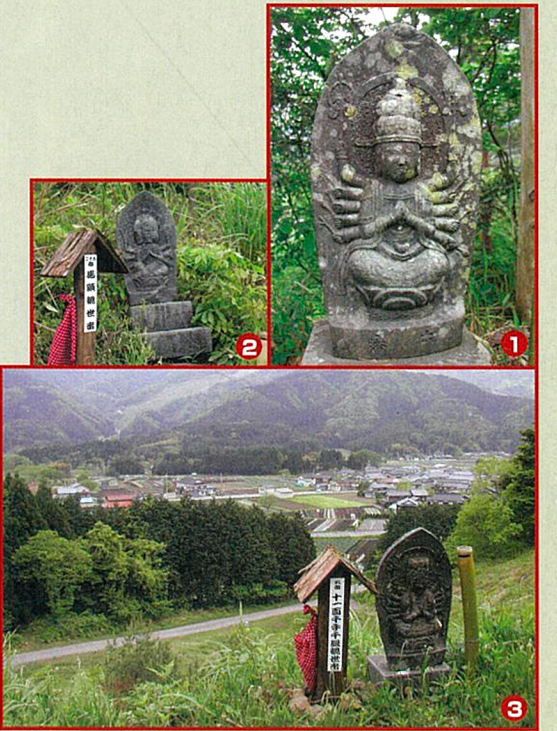


裏路地探険

里山観音めぐり／日高町神鍋高原

神鍋高原に点々と座する観音菩薩
季節の移ろいを風に感じて
神鍋の風景に溶け込んだ石像めぐり



1. ひっそりとたたずむ六番観音様
2. 二十番観音様
3. 五番観音様から眺める神鍋高原の景色も素晴らしい

日高町栗栖野にある臨濟宗「久遠山・大円寺」は、南禅寺派の別格地として建てられました。慶長10年頃、悦叔禪師は南禅寺住職を金地院崇伝禪師に譲り、竹野町にある円通寺に身を寄せていました。その時、雪山禪師と村人の熱い願いを受け、この大円寺を建立し、村々の人々に禅を説いたことがはじめとされています。

町指定の文化財に指定されている山門は、安永7年(1778)、名工・木之瀬重助の作(竹野町小丸村出身)で唐様を基調とした三間一戸の楼門形式で、屋根は当初こけら葺きだったそうです。蛙股や獅子、バク、ウサギの彫刻は精巧で獨創性に富み、いろいろな技法が用いられています。特にウサギの彫刻は大変珍しいものだそうです。

大正4年、神鍋高原に道づくりが行われました。その時、大円寺の檀家の皆さんが三十三体の観音菩薩の石像を奉納することとなり、大正6年に完成、落慶法要が行われました。石像を彫った石工は大屋町の羽瀨梅造、使った石は但馬4大南画家のひとつとして有名な中島梅岳も賛同してつくられました。それぞれの思いを込めた神鍋高原の三十三カ所石像観音菩薩は、多くの人々の信仰を集めていきました。

しかし、時は流れ、新しい道ができ、石像は草の中に埋もれ、人々の記憶からも忘れ去られていきました。昭和50数年頃、ソフトボールチームの監督をされていた畠山宗久住職が、子どもたちと一緒に三十三体の石像を探し出しました。そして、ご近所の皆さんの協力を得て、現在の遊歩道沿いに置き直しました。どうしても見つからなかった4体の石像は、檀家の皆さんの協力を得て、新しく作り直しをしました。現在では蛇紋岩がとれず、たいへん苦勞されたそうです。

神鍋高原の緑の中に、そととたずむ石像の姿は、アウトドアのメッカとしての神鍋高原とはまた違った風情があります。大円寺にある1番の石像をスタートとして、高原の素晴らしい自然を満喫しながら、三十三カ所石像観音菩薩をお参りしてみませんか？

2番の石像のすぐ近くには、風穴があり、夏は涼しく冬は暖かい、自然の神秘が味わえます。桜の木の下にある3番は、神鍋の地層がわかる断層を見学しながら進みましょう。神鍋山に登ると休憩所があるので、ひと休みしてまわりの風景を楽しんでください。

神鍋山火口周辺をぐるっと回って「お鉢まわり」をして、17番のすぐ横、神鍋神社にもお参りをどうぞ。20番はバラグライダーの基地のすぐそば。26番は古墳の横。通常は古墳の中には入れません。30番はかなべ湯の森ゆとりぎ近く、ゆつくり温泉につかって疲れをとり、道の駅「神鍋高原」でお土産を買って帰るのも楽しいです。

裏路地探険隊員募集 10月4日(土) 生野町

*実施日の10日前までに、18ページ掲載のT2編集部へ、住所・氏名・年齢・電話番号・「裏路地参加希望」とお書きの上、ハガキでお申し込みください。開催は午前中、現地集合・現地解散となります。申込締切日後、案内を参加ご希望の方へ送付致します。

神鍋神社と十七番観音様



三十三カ所の観音様をひとつひとつ丁寧に
お参りをしました



このあたりは
バラグライダーの基地
たくさんの方が気持ち
よさそうに飛んでいる



神鍋発祥地の石碑



スカイウェイで道の駅神鍋高原とつながり、
ますます便利になったかなべ湯の森ゆとりぎ

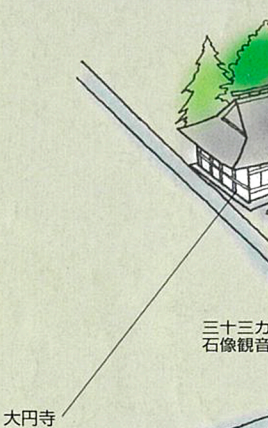


ご住職のお話を熱心に聞く参加者の皆さん

R482は平成15年11月に村岡町とつながり、
神鍋高原から湯村温泉まで車で30分



神鍋火山断層



三十三カ所
石像観音菩薩様

かなべ湯の森
ゆとりぎ

道の駅
神鍋高原

ブルーリッジホテル



大円寺



案内をいただいた大円寺
ご住職・畠山宗久さん



山門のバクとうさぎの彫刻
うさぎは大変珍しいとか

く横、神鍋神社にもお参りをどうぞ。20番はバラグライダーの基地のすぐそば。26番は古墳の横。通常は古墳の中には入れません。30番はかなべ湯の森ゆとりぎ近く、ゆつくり温泉につかって疲れをとり、道の駅「神鍋高原」でお土産を買って帰るのも楽しいです。

かなべ湯の森ゆとりぎと道の駅「神鍋高原」が全長81メートルの「スカイウェイ」で結ばれました。レストラン、ビアガーデンなど内容もボリュームアップ。

また、今年11月には日高町と村岡町を結ぶ蘇武トンネルが開通し、神鍋高原から湯村温泉まで車で30分つながります。ますます便利になって楽しめる、神鍋高原は進化しています。